

教職課程に関する情報公開

1. 教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画に関すること
2. 教員の養成に係る組織及び教員の数、各教員が有する学位及び業績並びに各教員が担当する授業科目に関すること
3. 教員の養成に係る授業科目、授業科目ごとの授業の方法及び内容並びに年間の授業計画に関すること
4. 卒業者の教員免許状の取得の状況に関すること
5. 卒業者の教員への就職の状況に関すること
6. 教員の養成に係る教育の質の向上に係る取組に関すること

1. 教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画に関すること

① 教員の養成の目標

本学の建学の精神は、大学名の由来である大乘仏典の一語「當相敬愛」です。この語は、今日要請されている教育思想の根幹となる「共生」「利他」の基本とも通底する精神であり、本学の教育の指針でもあります。本学では、この指針に基づき、音楽学部、人文学部、人間発達学部の3学部において、それぞれの学問分野における専門性に係る教育上の目的を掲げ、建学の精神を体現し、社会に貢献し得る有為な人材の育成に努めています。

また、大学が有する諸機能に関して、本学は3学部それぞれ、特定の専門的分野の教育、幅広い職業人養成、総合的教養教育、と異なっていますが、それらを通じた地域への社会貢献という点では共通しており、各学部それぞれの機能と社会貢献の複合が、本学の使命と目的と考えています。以上に基いて、『相愛大学将来構想』において、本学の教育上の目的を、この「共生」「利他」の精神のもと、具体的には(1)生命の尊さを学ぶ、(2)人生の目的を探究する、(3)市民的公共性を養う、(4)総合的な判断力を養う、(5)ボランティア精神を涵養する、の5点を教育目標として定めています。

本学における教職課程の考え方は、以上にあげた建学の精神、学則に規定する本学の目的と使命、本学が担うべき大学の機能、『相愛大学将来構想』によるその具体化を基盤とするものであり、これらに基づく教員養成を目的としています。教員は教育基本法第9条に定めるように、「自己の崇高な使命を深く自覚し、絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努める」人材であるべきです。本学ではこの点を重要なことと考え、教員を志願する学生に対して、つねにこれを意識させるような教育を行うことに努めています。

この目標を達成するため、各々の免許取得に関して、以下のような指導計画を実践しています。

② 各免許取得の指導計画

<中学校・高等学校教員免許>

中高免許に関しては、教育的愛情をもって生徒と向き合い、同僚教員や保護者と協働できる人間性豊かな教員を育成することを目的とし、教職に対する理解と、専門教科の実践的な指導力の向上とを両立させて、教員としての総合的な力量を培うことを目指します。

1年次では、教育の理念・思想、発達や学習の過程について学び、教員となるための基礎的な理解を得るとともに、教科に関する基礎的な知識の学習を開始します。

2年次では、教職の意義、生徒指導、教育の制度、教育相談について学び、教育活動を行う上で必要な基本的な知識・技能を習得します。

3年次では、教科指導法、教育課程の編成、道徳教育について学び、より専門的な教育的資質を養うとともに、介護体験を通じて様々な立場の人々に対する理解を深めます。

4年次では、教育実習に取り組み、教職課程を履修して身につけてきた力が、教員として必要な実践的な資質能力として有機的に統合され形成されているかを確認します。

<小学校教員免許>

本学の建学の精神「當に相い敬愛すべし(當相敬愛)」(他者の心や立場を大切にすること)という教育理念をもとに、優れた教師の条件である「総合的な人間力」の育成と、教育現場が抱える課題に対応できる教員養成をめざし、4年間で学修年次にしたがって段階的に学ぶカリキュラムを展開しています。

1年次には教育に興味を持って学校教育全体を概観し、小学校教員の基礎となる理論的基盤を形成します。

2年次からは基礎から応用へ、総論から各論へと学修を展開します。

3年次では、教科教育や指導法など専門性の育成を重視したカリキュラムを多数配置し、本格的に実践力の育成に取り組みます。

4年次においては、知識や技能等学内における学習と教育実習を有機的に統合し、広く深い児童理解をもとに適切な対応や援助、指導を実践できる資質能力を形成します。

養成段階における多様な体験の確保や得意分野の素地の形成、振り返りを通じた実践力の強化を図り、小学校教員としての実践的指導力の育成を図ります。

<幼稚園教員免許>

優れた幼稚園教諭の条件である「総合的な人間力」の育成と、幼稚園教育現場が抱える課題に対応できる教員養成をめざし、4年間で学修年次にしたがって段階的に学ぶカリキュラムを展開しています。幼児理解に基づき、遊びを通じて総合的に指導するという幼稚園教員の専門性の養成を基盤に、段階的にカリキュラムを展開しています。

1年次には教育に興味を持って学校教育全体を概観し、幼稚園教員の基礎となる理論的基盤を形成します。

2年次からは演習科目を多く開設し、基礎から応用へ、総論から各論へと学修を展開します。

3年次では実践力の育成を重視したカリキュラムを多数配置し、本格的に実践力の育成に取り組みます。

4年次においては、知識や技能等学内における学習を有機的に統合し、現実と直面した学びを創造することの重要性を再認識し、適切な対応や援助、指導を実践できる資質能力を形成します。

養成段階における多様な体験の確保や得意分野の素地の形成、省察を通じた実践力の強化を図り、幼稚園教員としての実践的指導力の育成を図ります。

<栄養教員免許>

食に関する高度で専門的な知識を備え、食の問題を「心」と「からだ」の両面からとらえた食育ができる栄養教諭の育成を目指しています。

1、2年次では教職に関する基礎的な科目を修得します。

3年次では、学校栄養教育論Aで食に関する指導の重要性、学校給食の役割、栄養教諭の全体像及び職務の実際等について学びます。さらに、学校栄養教育論Bでは、学校給食を「生きた教材」として活用し、給食の時間、関連教科、道徳、特別活動など全教育活動を通じて行う指導へとより具体的な内容に発展させます。

4年次では、栄養教育実習に向けて、学校教育や組織をテーマとして取り上げるとともに、実習授業に必要な学習指導案、教材作成を行い、模擬授業を通して学生相互の指導力を高めます。最後に履修する教職実践演習では、既に修得している栄養教諭としての知識・技能と栄養教育実習等で得られた食に関する指導力の更なる向上を目指します。

2. 教員の養成に係る組織及び教員の数、各教員が有する学位及び業績並びに各教員が担当する授業科目に関すること

① 教員養成に係る組織

・ 教職課程委員会

教育実習及び教職課程全般の円滑・適正な運営を図る全学的な組織として、教学部長、「教職に関する科目」担当の専任委員、各学部の教務主任及び専任教員、教学課長で組織する教職課程委員会を設置しています。教職課程委員会のもとに、初等教育教員免許部会、中等教育教員免許（専修免許を含む）部会、栄養教諭免許部会を置き、免許種ごとに、教職及び教科に関する教育内容、教育方法を向上させるように努めております。

- ・ 教職課程合同研究室等

学校現場の経験や教職に関する豊富な知識を持つ教員が、教員免許取得や教員採用試験対策に関わる学習支援・情報提供など、教員養成に関わる総合的な支援を行っています。

② 教員の養成に係る教員の数、各教員が有する学位及び業績並びに授業科目

- ・ 中学校・高等学校教員免許
- ・ 小学校教員免許
- ・ 幼稚園教員免許
- ・ 栄養教員免許

3. 教員の養成に係る授業科目、授業科目ごとの授業の方法及び内容並びに年間の授業計画に関すること

- ・ 教職に関する科目一欄

4. 卒業者の教員免許状の取得の状況に関すること

- ・ 卒業者の教員免許状の取得状況（過去5年間）

<音楽学部>

区 分		平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
卒業生数	学部	103 人	78 人	89 人	88 人	89 人
	専攻科	14 人	11 人	10 人	6 人	13 人
免許状 取得者数	実人数	46 人	34 人	33 人	32 人	34 人
	小一種免	1 人	3 人			
	中一種免	37 人	30 人	30 人	31 人	29 人
	高一種免	38 人	30 人	31 人	32 人	29 人
	中専修免	7 人	3 人	2 人		5 人
	高専修免	7 人	3 人	2 人		5 人

<人文学部>

区 分		平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
卒業生数		104 人	98 人	74 人	59 人	68 人
免許状 取得者数	実人数	4 人	4 人	3 人	4 人	2 人
	小一種免	1 人				
	中一種免	3 人	5 人	2 人	4 人	2 人
	高一種免	3 人	5 人	3 人	4 人	2 人

<人間発達学部子ども発達学科>

区 分		平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
卒業生数		74 人	59 人	74 人	62 人	62 人
免許状 取得者数	実人数	57 人	44 人	56 人	53 人	50 人
	幼一種免	53 人	40 人	55 人	52 人	50 人
	小一種免	37 人	28 人	32 人	36 人	41 人
	中一種免	1 人	1 人			
	高一種免	2 人	1 人			

<人間発達学部発達栄養学科>

区 分		平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
卒業生数		68 人	62 人	47 人	46 人	57 人
免許状 取得者数	実人数	8 人	4 人	3 人	5 人	5 人
	中一種免					
	高一種免					
	栄教一種免	8 人	4 人	3 人	5 人	5 人

5. 卒業生の教員への就職の状況に関すること

<音楽学部>

区 分		平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
卒業生数		103 人	78 人	89 人	88 人	89 人
教員就職者数	小学校	2 人	1 人		1 人	
	中学校	5 人	6 人	3 人	3 人	3 人
	高等学校	2 人	2 人	2 人	1 人	1 人
	特別支援	2 人		3 人	2 人	2 人

<人文学部>

区 分		平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
卒業生数		104 人	98 人	74 人	59 人	68 人
教員就職者数	小学校	1 人				
	中学校	1 人	2 人			1 人
	高等学校	1 人		1 人	1 人	1 人

＜人間発達学部子ども発達学科＞

区 分		平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
卒業生数		74 人	59 人	74 人	62 人	62 人
教員就職者数	幼稚園	8 人	5 人	11 人	8 人	10 人
	小学校	14 人	12 人	14 人	20 人	13 人
	中学校		1 人			

＜人間発達学部発達栄養学科＞

区 分		平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
卒業生数		68 人	62 人	47 人	46 人	57 人
教員就職者数	栄養教諭	3 人	2 人	1 人		2 人

6. 教員の養成に係る教育の質の向上に係る取組に関すること

＜中学校・高等学校教員免許＞

中学校・高等学校の教員としての使命感や責任感、教育的愛情、社会性や対人関係能力、生徒を理解し学級を運営する能力、教科内容の指導力という、教員として求められる資質能力を向上させていくことを課題として、教職及び教科に関する学内での授業においては、講義に加えてグループ討論、ロールプレイング、ディベート、模擬授業等の方法を取り入れるとともに、大阪市及び近隣地域の提携校との連携に基づく学校支援学生ボランティア活動を単位化しています。また、現職教員や校長経験者を外部講師として招くこと、卒業生の現職教員と交流することによって、その経験から学び、教育現場の現状を理解できるように努めます。さらに、教職に就くために必要な知識・技能を学生が身につけていくことを目指して、教員採用試験を視野に入れて、2年生の段階から学生が自発的に組織する研究会での指導、及び、学生ひとりひとりに対する個別指導を行っています。

＜小学校教員免許＞

小学校現場で学び成長していける教員の養成をめざして、多彩な教育環境を開発し、体験を通じた実践的な学びを創造しています。キャンパス内に「相愛ビオトープとつどの里山」学習環境をはじめ、ラーニング・コモンズ・ゾーンを設置し、主体的学びを引き出す教育方法の導入を行っています。1年次の「保育・教育実践学習」や4年次での「保育・教育インターンシップ実習」で、教育実習以外に現場を体験する機会を開発し単位化しています。さらに、地域の小学校と連携し、子どもたちとの交流を通じた教

育方法の展開を学科全体の取り組みとして実施しています。また、実践的技量を高め資質能力の向上を目指す取り組みとして、専門家を招いてのスキルアップ講座や卒業生や現場教員と学生が共に学ぶ場としての「教師力 UP 講座」なども、科目間および教員間で、学校現場に出るまでに育てたい力の共通理解と教育内容の連携を図りながら実施しています。

＜幼稚園教員免許＞

教員になる者の体験活動を重視し、多様な体験を通じた実践的な学びの場として多彩な教育環境を開発し実践しています。キャンパス内に「相愛ビオトープとつどいの里山」学習環境をはじめ、ラーニング・コモンズ・ゾーンを設置し、主体的学びを引き出す教育方法の導入を行っています。教育実習以外に現場を体験する機会を 1 年次から「保育・教育実践学習」で、4 年次では「保育・教育インターンシップ実習」で開設し単位化しています。さらに、幼稚園教員に求められるニーズの高度化・多様化への対応をめざし、地域の幼稚園だけでなく保育所や小学校と連携し、子どもたちとの交流を通じた教育方法の展開を学科全体の取り組みとして実施しています。また、地域の子育て家庭との連携により保護者とのかかわりについても実践的に学習する場を開設しています。いずれも、科目間および教員間で、学外実習を軸とした専門科目での育てたい力の共通理解と教育内容の連携を図り実施しています。

＜栄養教員免許＞

栄養教諭には、子どもたちが将来にわたって健康で生き生きと生活していけるように、子どもたちに対する食育を充実し、望ましい食習慣の形成を図ることが求められています。

本学の栄養教諭の育成に当たっては、発達栄養学科の目標でもある実践力の育成に重点を置いています。そこで、学校現場での実践を踏まえた学習指導案や教材例を取り上げるとともに、学生による学習指導案、教材の作成をあらゆる場面で取り入れ、模擬授業を行い、学生相互の評価を通して指導力の向上に努めています。最終の教職実践演習では、近隣の小学校に依頼して学校参観を実施します。栄養教諭による食に関する指導の授業を参観して、研究協議の場で意見交換を行い、また、校長先生には、食に関する指導のみならず学校経営全般にわたって、学生が準備した質問にお答えいただき、学校の教職員としての心構えを培っています。

② 教員の養成に係る教員の数、各教員が有する学位及び業績並びに授業科目

<栄養教員免許>

教員養成に係る教員数 13名(専任教員4名、非常勤講師9名)

<栄養・教職に関する科目>

	教員氏名	担当科目	学位	研究業績
専任教員	長谷川精一	教職入門	博士 (教育学)	*『森有礼における国民的主体の創出』、思文閣出版、2007年 *「沖縄言語論争」再考(『知の伝達メディアの歴史研究—教育像の再構築—』)、思文閣出版、2009年 *「福沢諭吉における兵役の「平等」—徴兵論と兵役のがれの間」(『明治国家の精神史的研究』)、以文社、2007年 *「森有礼」、「福沢諭吉」(『人物で見る日本の教育』)、ミネルヴァ書房、2011年 *「言語教育と地域語との関係に関する比較史的考察」、相愛大学研究論集31巻、2015年
		教育原論		
		教育史		
	沼田 潤	教育の方法と技術	博士 (教育学)	*「ネガティブなイメージを持たれている外国に対する偏見を低減する写真提示の効果」、人間環境学研究会「人間環境学研究」9巻2号、2011年 *「日本人大学生における異文化理解の現状」、人間境学研究会「人間環境学研究」10巻2号、2012年 *「Effects of a letter-writing task on empathy toward Japanese- Brazilians as out-group members: An educational method for intercultural understanding in universities and colleges.」、『Psychologia』Vol.56、2013年
	村井陽子	栄養教育実習	博士 (医学)	* 食育を目指す学生による食に関する指導の効果—小学校2年生を対象とした実践—、共著、日本食育学会誌、6、173~181、2012年 * 豆調理頻度向上を目的とした印刷媒体による教育効果—小学生保護者を対象として—、共著、日本食育学会誌、8、111~120、2014年 * 主食・主菜・副菜を組み合わせる食べる食育プログラムの効果—小学校6年生を対象とした朝食指導を中心として—、共著、日本食育学会誌、9、105~112、2015年 * みそ汁の減塩と野菜の摂取増を目指す高校生対象食育講座「野菜たっぷりみそ汁を作ろう」—官学協働の食育実践事例—、共著、栄養学雑誌、73、16-27、2015年 *「栄養教育・栄養指導論演習・実習」、共著、みらい、2015年
教職実践演習 (栄養教諭)				

	馬場 義伸	生徒指導論	学士 (教育)	<ul style="list-style-type: none"> * 小学校学級担任アイデアブック〈1・2年〉〈5・6年〉民衆社、2000年 * 長編実践記録～今こそ生活綴り方を～、「作文と教育」、本の泉社、2009年 * 「ぼくも書きたいことあるねん」—どっこい生きているなにわの子—、本の泉社、2010年 * 作文にはまった！—高南小三年担任団の奮戦記—、第61回全国作文教育研究大会岡山大会、2012年 * 若手先生、走る(番外編)子どもや父母と共に育てている若手先生、「作文と教育」、本の泉社、2013年 * 書くことっていいね……表現のある教室、「作文と教育」、本の泉社、2014年
非常勤講師	石山 裕菜	教育心理学	修士 (人間科学)	<ul style="list-style-type: none"> * 修士論文:「物語体による目標行動筆記が行動達成に与える効果」、2011年 * 「高校生の学業形態と生活形態の関連について」、共著、朱雀高校、2010年
	渡邊ひとみ	教育心理学	博士 (文学)	<ul style="list-style-type: none"> * 博士論文:女性のライフコース選択と生活領域の視点からみたアイデンティティとの関連 * 「独身勤労女性のライフコース選択と生活領域からみたアイデンティティとの関連」、発達心理学研究、22、189～199、2011年
	古田 薫	学校の制度と経営	博士 (教育学)	<ul style="list-style-type: none"> * 『親と学校のパートナーシップについての考察—親の学校参加の今日的意義と課題—』、京都大学大学院教育学研究科紀要第51号、2005年 * 『教育的な「ニーズ」とは何か:「ニーズ」概念に関する考察』、教育行政学論叢第9号、2005年 * 『教育におけるニーズ概念とニーズアセスメント』、京都大学大学院教育学研究科紀要第53号、2007年
	弘田みな子	学校の制度と経営	修士 (教育学)	<ul style="list-style-type: none"> * 卒業論文:「個体と変化—ベルクソン『創造的進化』を手がかりに—」、2004年 * 修士論文:「言語と生命—野村芳兵衛の『生活綴方』を手がかりに—」、2007年 * 「言語と生命—野村芳兵衛の生活綴方実践を手がかりに—」、京都大学教育学研究科紀要論文、2014年
	倉本 香	道徳教育論	博士 (哲学)	<ul style="list-style-type: none"> * 『近代倫理思想の世界』、共著、晃洋書房、1998年 * 『道徳性の逆説—カントにおける最高善の可能性—』、晃洋書房、2004年 * 『倫理のノート』、共著、萌書房、2015年
	天野 義美	特別活動論	学士 (文学)	<ul style="list-style-type: none"> * 「学級活動ハンドブックQ&A・年間指導計画」、大阪市小学校教育研究会学級活動部、2001年 * 「特別活動の指導ハンドブックQ&A」、特別活動研究書籍編集委員会、pp33～90、2006年

奥野浩之	教育課程の意義と編成	修士 (教育学)	<ul style="list-style-type: none"> *「第5章 総合的な学習の時間と教育課程」(『教育課程論のフロンティア』)、晃洋書房、2010年 *「憲法学習のフロンティア—対国家規範性と平等権について考える授業—」、相愛大学研究論集29巻、2013年 *「教育課程における科目横断的内容編成の可能性—「道德の時間」と「社会科」を事例として—」、評論・社会科学108号、同志社大学社会学会、2013年 *「第8章 現代の日本」(『新日本史A 教授用総合指導書』)、実教出版、2014年 *「第13章 現代の日本と新しい文化」(『日本史B 授業ノート』)、実教出版、2014年
吉田 卓司	教育相談	修士 (法学)	<ul style="list-style-type: none"> *「新版教職入門生徒指導法を学ぶ」、三学出版、2008年 *「生徒指導法の実践研究—生徒指導と教職教育の新戦略」、三学出版、2008年 *「教育方法原論」、三学出版、2013年
山北 人志	栄養教育実習	学士 (農学)	<ul style="list-style-type: none"> * 大阪市小学校教育研究会論文「学校・家庭・地域が連携した食に関する指導の充実をめざして」、単著、2007年 * 大阪市立中央小学校、研究紀要「望ましい食生活のできる子どもを育てる—家庭・地域とのふれあいを通じた食育をめざして—」、共著、2009年 * 相愛大学人間発達学研究創刊号「大学生の食生活に関する意識・行動と学生食堂におけるメニュー選択等に関する調査」、共著、2010年 * 相愛大学研究論文集第29巻「小学校における食に関する指導(食育)と食生活に及ぼす影響の関連について」、共著、2013年
	教職実践演習 (栄養教諭)		

< 栄養・栄養に関わる教育に関する科目 >

	教員氏名	担当科目	学位	研究業績
非常勤講師	山北 人志	学校栄養教育論A 学校栄養教育論B		※ 教職に関する科目欄にあり

3. 教職に関する科目一覧

・高等学校教員免許、中学校教員免許、小学校教員免許

免許法施行規則に定める科目区分	高等学校教員免許	中学校教員免許	小学校教員免許
教職の意義等に関する科目	<u>教職入門</u>	<u>教職入門</u>	<u>教育職の研究</u>
教育の基礎理論に関する科目	<u>教育原論</u> <u>教育史</u> <u>教育心理学</u> <u>学校の制度と経営</u>	<u>教育原論</u> <u>教育史</u> <u>教育心理学</u> <u>学校の制度と経営</u>	<u>教育原理</u> <u>発達心理学</u> <u>教育心理学(子ども)</u> <u>学校の制度と経営</u> (幼・小)
教育及び指導法に関する科目	<u>教育課程の意義と編成</u> <u>教育の方法と技術</u> <u>音楽科教育法 A</u> <u>音楽科教育法 B</u> <u>音楽科教育法 C</u> <u>音楽科教育法 D</u> <u>国語科教育法 A</u> <u>国語科教育法 B</u> <u>宗教科教育法 A</u> <u>宗教科教育法 B</u> <u>特別活動論</u>	<u>教育課程の意義と編成</u> <u>教育の方法と技術</u> <u>音楽科教育法 A</u> <u>音楽科教育法 B</u> <u>音楽科教育法 C</u> <u>音楽科教育法 D</u> <u>国語科教育法 A</u> <u>国語科教育法 B</u> <u>宗教科教育法 A</u> <u>宗教科教育法 B</u> <u>道徳教育論</u> <u>特別活動論</u>	<u>教育課程論</u> <u>教育方法論</u> <u>国語科指導法</u> <u>社会科指導法</u> <u>算数科指導法</u> <u>理科指導法</u> <u>生活科指導法</u> <u>音楽家指導法</u> <u>図画工作指導法</u> <u>家庭科指導法</u> <u>体育科指導法</u> <u>道徳教育の理論と実践</u> <u>特別活動の指導法</u>
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	<u>生徒・進路指導論</u> <u>教育相談</u>	<u>生徒・進路指導論</u> <u>教育相談</u>	<u>生徒・進路指導の理論と方法論</u> <u>学校カウンセリング</u>
教育実習	<u>教育実習 1(事前事後指導)</u> <u>教育実習 2(実地実習)</u> <u>教育実習 3(実地実習)</u>	<u>教育実習 1(事前事後指導)</u> <u>教育実習 2(実地実習)</u> <u>教育実習 3(実地実習)</u>	<u>教育実習の指導</u> (事前事後指導) <u>教育実習(実施実習)</u>
教職実践演習	<u>教職実践演習(中・高)</u>	<u>教職実践演習(中・高)</u>	<u>教職実践演習(幼・小)</u>

・幼稚園教員免許、栄養教員免許

免許法施行規則に定める科目区分	幼稚園教員免許	栄養教員免許
教職の意義等に関する科目	<u>教育職の研究</u>	<u>教職入門</u>
教育の基礎理論に関する科目	<u>教育原理</u> <u>発達心理学</u> <u>教育心理学(子ども)</u> <u>学校の制度と経営(幼・小)</u>	<u>教育言論</u> <u>教育史</u> <u>教育心理学</u> <u>学校の制度と経営</u>
教育課程及び指導法に関する科目	<u>教育課程論</u> <u>教育方法論</u> <u>保育内容総合</u> <u>保育内容健康</u> <u>保育内容人間関係</u> <u>保育内容総合表現 A</u> <u>保育内容総合表現 B</u> <u>保育内容環境</u> <u>保育内容言葉</u>	<u>教育課程の意義と編成</u> <u>教育の方法と技術</u> <u>道徳教育論</u> <u>特別活動論</u>
生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目	<u>保育カウンセリング</u> <u>学校カウンセリング</u>	<u>生徒指導論</u> <u>教育相談</u> <u>生徒・進路指導論</u>
教職実践演習	<u>教職実践演習(幼・小)</u>	<u>教職実践演習(栄養教諭)</u>
教育実習	<u>教育実習の指導</u> <u>(事前事後指導)</u> <u>教育実習(実施実習)</u>	<u>栄養教育実習</u>
・栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項 ・幼児、児童及び生徒の栄養に関する事項 ・食生活に関する歴史的及び文化的事項		<u>学校栄養教育論 A</u>
食に関する指導の方法に関する事項		<u>学校栄養教育論 B</u>

※ 授業科目ごとの授業の方法及び内容並びに年間の授業計画についてはシラバスをご欄ください。

<注：シラバスへのリンクは現在作業中です。>